

氏名	木島 庸貴
学位の種類	博士 (医学)
学位記番号	甲第502号
学位授与年月日	平成30年10月 3日
審査委員	主査 教授 神田 秀幸
	副査 教授 山口 修平
	副査 教授 田邊 一明

### 論文審査の結果の要旨

わが国の高齢社会において、地域での在宅医療や病診連携の重要性は増してきている。在宅医療を受ける地域在住の高齢者における急性疾患発症時の診断の困難さは、家庭医が日頃から直面する問題である。そこで、本研究は、この状況における家庭医の診断困難の頻度とその関連要因を明らかにすることを目的とした。

研究対象者は、岡山県北部の家庭医を育成する1つの医療機関で在宅医療を受ける地域在住の高齢者で、かつ2011年1月から2012年12月の間に他院に緊急入院となり最終診断が確定した症例とした。入院後の診療録の病名を最終診断とし、家庭医が臨時往診した際の初期診断とretrospectiveに検討を行い、診断に相違がみられた症例を診断困難と定義した。診断困難群とそれ以外の群と群間比較を行い、診断困難の関連要因の検討は多変量解析を用いた。

この結果、研究期間に77症例（平均年齢85±7才）が研究対象者となり、このうち29症例（38%）に診断困難がみられた。診断困難群において、消化器疾患が統計的有意差をもって多くみられた。また在宅での内服薬が多いことは群間比較により診断困難群で有意に多くみられ、多変量解析（8剤以上）でも同様の結果が得られた。

本研究結果は、地域での在宅医療を担う家庭医において、急な体調不良を訴える高齢者の診療の際、原因疾患が想定しにくい場合には消化器疾患の可能性をより想定すること、また在宅での内服薬が多い患者には原因疾病をより広く想定した精査を行うことを示唆していると考えられた。地域高齢者医療における家庭医の診断精度向上に寄与することが期待され、博士（医学）に値すると判断した。